

## 平成27年度 東北6県及び新潟県の電気事故の概要

関東東北産業保安監督部 東北支部

## 1 総括

平成27年度に管内で発生した電気事故は44件で、前年度の71件に比べ27件（38%）減少しました。

事故の種類別に前年度と比較すると、感電等死傷事故が4件で2件の減少、主要電気工作物の破損事故が21件で7件の減少、自家用電気工作物からの波及事故が19件で12件の減少となりました。（図1、図2）

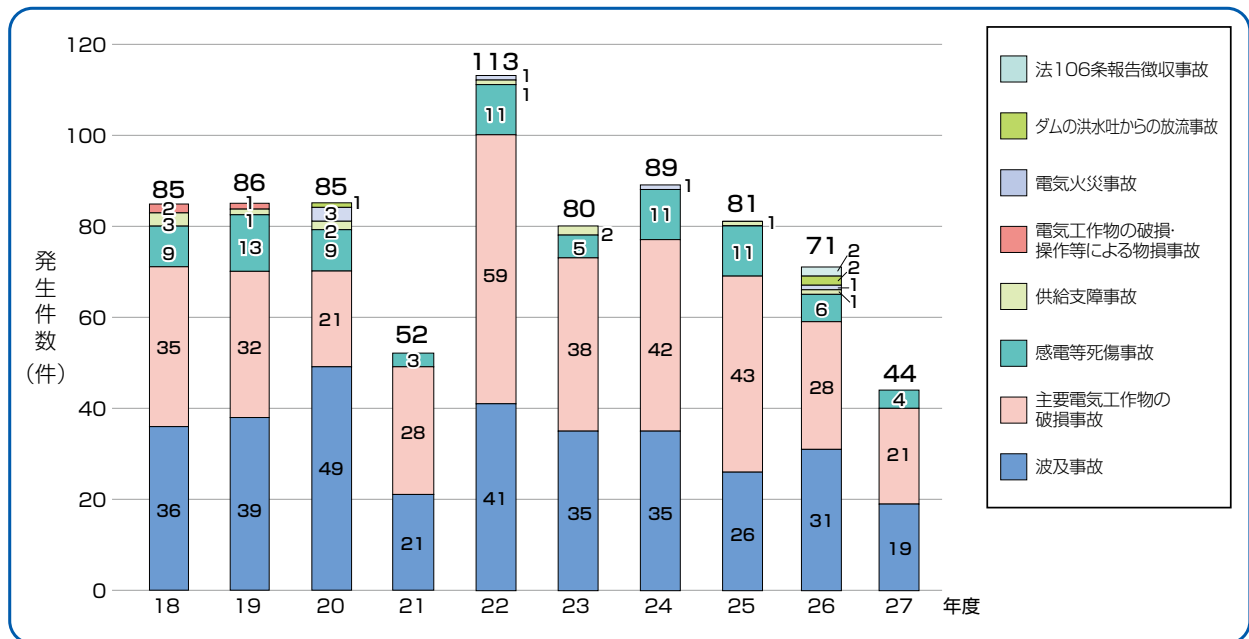


図1 電気事故発生件数の推移（電気事故の種類別）

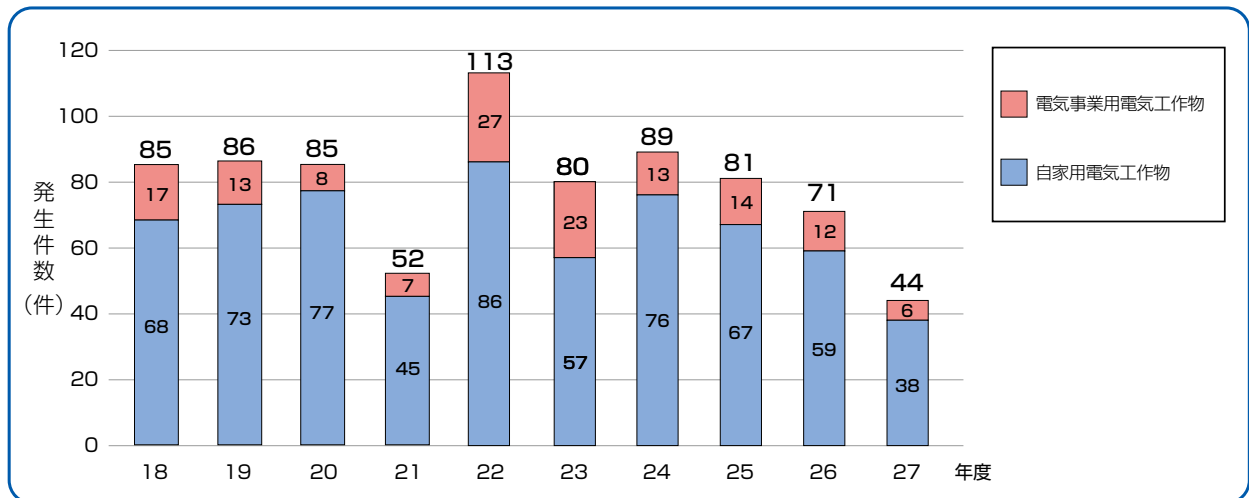


図2 電気事故発生件数の推移（電気工作物別）

## 2 感電等死傷事故

平成27年度の感電等死傷事故は4件で、前年度より2件減少しました。

被災者別に見ると、作業員によるものが2件、公衆によるものが2件でした。(図3)

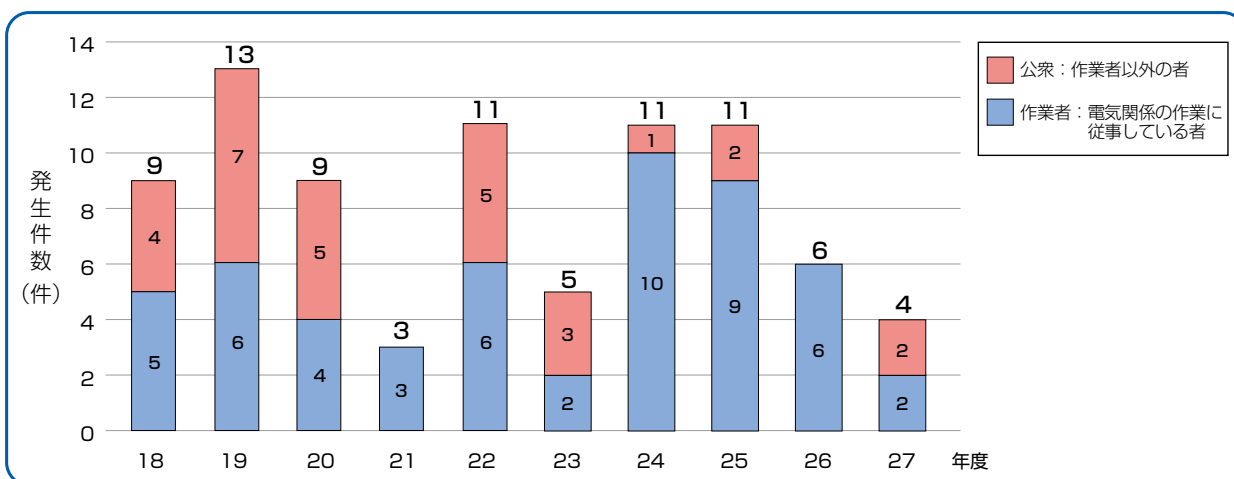


図3 感電等死傷事故件数の推移（被災者別）

### ●感電事故事例：平成27年8月発生

被災者（代表取締役）は、自治体から送付されてきたPCB含有機器に関する調査票に回答するため、機器銘板を調査しようと思いキュービクルに向かった。被災者は、電気主任技術者に相談せずキュービクルの扉を開放し、銘板調査を開始したが、銘板の文字が小さく肉眼では読み取れないため、デジカメで撮影しようとして前にせり出したとき、デジカメの先端が高電圧機器（6,600V）に触れ感電負傷した。

#### 感電事故防止のために

- ・キュービクルの鍵は簡単に持ち出せないように、保管場所、管理責任者、持ち出す際のルールを定め、従業員に周知しましょう。
- ・キュービクルの扉を開放する場合は、事前に電気主任技術者（保安協会）に相談し指示を仰ぎましょう。
- ・電気安全についての保安教育を行い、従業員の事故防止に対する意識を高めましょう。



### 3 他社への波及事故

平成27年度の波及事故は19件で、前年度に比べ12件の減少となりました。すべて自家用電気工作物からの波及事故でした。(図4、表1)

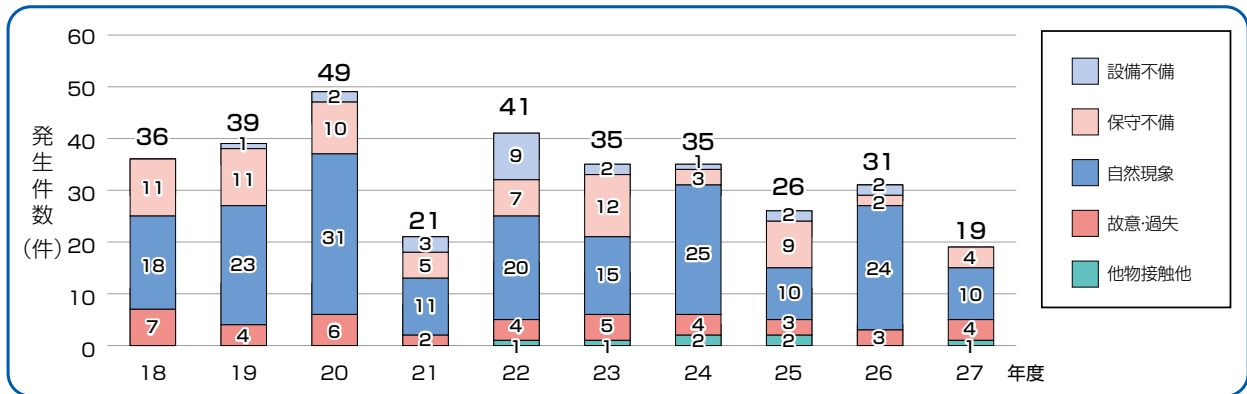


図4 波及事故件数の推移 (原因別)

原因別に見ると、『自然現象』が10件で最も多く、『故意・過失』が4件、『保守不備』が4件、その他1件となっています。『自然現象』の10件のうち「雷」が8件と例年同様多くを占めています。また、「塩、ちり、ガス」が2件発生しています。『故意・過失』の4件のうち1件が「作業者の過失」で、事故点を十分探査せず保護継電器の不良と判断してPASのトリップコイル配線を外してPASを再投入した事例でした。また、2件が「公衆の故意・過失」で、事業所内又は隣地での土木工事中に重機によりPAS等を引き倒したものです。

『保守不備』の4件のうち「保守不完全」が2件で、主任技術者が未選任で電気設備の点検手入れが不十分であった事例が1件、電力会社との保護協調がとれず波及事故となった事例が1件です。

原因大分類	設備不備		保守不備		自然現象			故意・過失			その他	合計	
	製作不完全	施工不完全	保守不完全	自然劣化	風雨	冰雪	雷	塩・ちり・ガス	作業者の過失	公衆の故意・過失			火災
<b>事故発生電気工作物</b>													
高圧気中負荷開閉器 (PAS)							5	2		2		1	10
高圧ガス開閉器 (PGS)				1			1						2
変圧器			1						1				2
避雷器							1						1
計器用変圧器			1										1
高圧ケーブル				1							1		2
ケーブルヘッド							1						1
計			2	2			8	2	1	2	1	1	19

表1 自家用波及事故発生電気工作物別・原因別発生状況 (平成27年度)